

## Sumitomo Mitsui Banking Corporation Brazil DAILY MARKET REPORT



Treasury Department

## マーケットサマリー

昨日のドルレアルスポット相場は、中銀が公表した11月経済活動指数が前月比0.04%増(季節調整済)と市場予想を上回ったことを受け、序盤はレアル買いが進行。一時節目の2.60を割れる時間帯も見られた。Levy財務相から緊縮財政への取組に関して前向きな発言が続いており、投資家はブラジル経済の先行きについて楽観的な見方を足許で強めていたが、「依然として期待や約束の範疇であり、具体性に乏しい」という側面があることに加え、心理的節目である2.60という水準が意識されたため、引けにかけては2.64台まで反発した。ボベスパ株式指数は5営業日ぶりに上昇し前日比0.8%高。スイス国立銀行(SNB)は2011年9月以降、無制限の介入ラインとして設定していた1ユーロ=1.20スイス・フランの上限を突如撤廃すると公表したことで市場に大きなサプライズを与えた。マーケットでは、「仮に来週1月22日の会合において欧州中央銀行(ECB)が量的緩和策に乗り出した場合、SNBがこれ以上ユーロを買い支えるのは困難と判断した」との見方を強まっており、流動性相場への期待からボベスパ指数もポジティブな反応を示した。

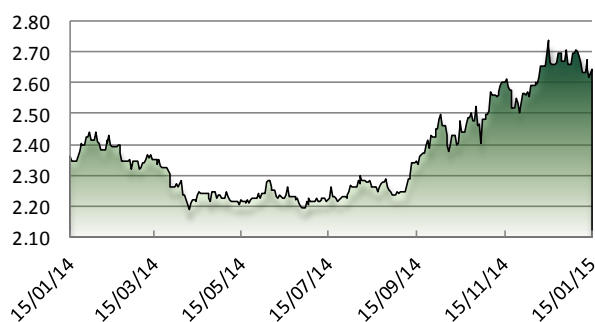
欧州中央銀行(ECB)は2012年9月、スペインなど南欧諸国の国債が下落し資金調達不安が生じた際に、「償還まで1-3年の国債を対象にECBが無制限に買い入れる(Outright Monetary Transactions: OMT)」という量的緩和策を導入した。しかし、本制度が「加盟各国の権限を侵害し、財政ファイナンス禁止に抵触する恐れがある」として独憲法裁判所がその合法性に疑念を示すと共に、最終的な判断を欧州司法裁判所(ECJ)に付託していた。これに関し、ECJの法務官が14日、「域内の問題国への支援にECBが直接関与しなければ合法」との見解を示したことで、マーケットではECBが次回会合においてOMTに踏み切るとの期待が高まっている。

## マーケットデータ

Indicator	Unit	1月14日	1月15日	前日比	12月15日	1ヶ月前比
BRL / JPY Spot	JPY	44.84	43.96	-0.88	43.71	+0.25
USD / BRL Spot	BRL	2.6164	2.6420	+0.0256	2.6958	-0.0538
USD / JPY Spot	JPY	117.33	116.17	-1.16	117.82	-1.65
Bovespa (ブラジル株価指数)	Index	47,646	48,026	+380	47,019	+1,007
CDS Brazil 5yrs (クレディットデフォルトスワップ)	bps	202.4	209.2	+6.8	235.6	-26.4
Brazil 10yrs Gov. Bond	%	12.21	12.15	-0.06	12.71	-0.56
DI Future Apr16 (金利先物)	%	12.65	12.62	-0.03	12.69	-0.07
3 Months US Dollar Libor	%	0.254	0.254	+0.000	0.243	+0.011
CRB Index (国際商品指数)	Index	223.3	220.4	-2.9	241.1	-20.7

これらのレートは各市場における終了時点の気配値です。実際のレート提示は弊行担当者までお問い合わせ下さい。

ドルレアルスポットチャート



レアル円スポットチャート

